

沿岸重要種の資源評価研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 受託 研究期間 平成31年度～)

担当：水産技術研究所 資源海洋科 池田卓摩

浜名湖分場 鈴木基生

伊豆分場 永倉靖大

【研究の背景とねらい】

- 平成30年12月に成立した新しい漁業法において、資源評価対象種の拡大が求められています。
- 静岡県も沿岸重要種である「タチウオ」、「アカザエビ」、「イセエビ」を新たに対象種として加え資源評価研究を行います。
- 国際的な資源管理が求められているニホンウナギについて、資源評価に不可欠なシラスウナギの採捕情報の収集・解析を全国の試験研究機関と共同で行います。



タチウオ



アカザエビ



イセエビ



シラスウナギ

【期待される効果】

- 各種データから資源評価を行うことで適切な資源管理が可能となり、資源の持続的な利用が図られます。
- ニホンウナギの資源評価を行うことで適切な資源の管理に繋がります。

【年次計画】

細目課題		H31	H32	H33
中部地域重要種の資源評価 (タチウオ、アカザエビ)	・漁獲量の集計	○	○	○
	・資源評価に必要なデータの入手方法の検討	○	○	○
伊豆地域重要種の資源評価 (イセエビ)	・漁獲量の集計	○	○	○
	・イセエビのプエルルス幼生の採集調査	○	○	○
	・漁獲物の体長測定	○	○	○
西部地域重要種の資源評価 (ニホンウナギ)	・漁獲量の集計	○	○	○
	・シラスウナギのサンプリング調査	○	○	○

(作成 平成31年4月)